

# 地域分権を望む市民づくりの取り組み ～失敗から何を学び、改善したか～ (委託契約期間の総括：2016年度～2020年度)

つどい委託運営団体独自作成

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク

(担当：副理事長・つどい業務責任者 新福泰雅)

# はじめに：地域分権を望む市民とは

- 地域社会における規範・基準・目的といったことを市民自らで決めて協力し実施すること（**自治の原則**）（自治⇔他人任せ）。
- 自治の原則による仕組みや活動を「地域分権」または「新しい公共」と呼ばれる。
- 自治は、明治時代以後、市民が政府や行政に税金を納めることで、市民が政府・行政に公共・公益を委ねる仕組みが出来た（行政主体による地域社会の自治の実施。市民の自治の低下）。
- 政府・行政主体による仕組み（規制システム）では、多様な社会問題・ニーズ・価値観に応えることが出来なくなった。  
→ **本来の自治の原則（市民主体）に戻そうとすること。**

# 自治の原則【定義・考え・仕組み・役割】

## 【定義】

- 市民：住む・働く・学ぶなど生活にかかわる個人及び集団。
- 集団：市民活動団体・地域活動団体・事業者・教育機関など。
- 地域分権を望む市民：本来の自治の原則に戻す市民、もしくは望む市民。

## 【自治の原則に戻すための基本的な考え】

- 行政が主体で実施してきたことを、市民が望んで主体になり実施する。

## 【自治の原則に戻すための仕組み・役割】

- 市民が望んで主体的になり、行政から権限・予算の移譲を望み、移譲を実施する  
(移譲：行政が対等である市民に譲る意味)
- 市民主体の組織として、地域では小学校区単位を基本とする「校区まちづくり協議会」が地域分権推進の中心的な役割を担う。
- 本来の自治の原則に戻す市民を支援する。もしくは望む市民を創り出す。これらの役割が中間支援（第三者）組織だと位置づける。

【出典：「学生のためのボランティア論」（社福）大阪ボランティア協会】<sub>3</sub>

# 失敗から何を学んだか？

定義：失敗と学ぶ

失敗体験 + 気づき + 改善

# 失敗から何を学んだか？ 【定義】

## 【失敗の定義】

- 本来の自治の原則を望む市民を創り出せなかったこととする。

## 【学ぶ（経験）の定義】

- 学ぶ（経験） = 失敗体験 + 気づき + 改善

# 失敗から何を学んだか？ 【失敗体験①】

【失敗体験①：2013（平成25）年度（8月）～2016（平成28）年度】  
**情報発信でつながりが生まれなかった。**  
**すぐ出来る支援策を模索：キーワードとして情報提供**

- 情報発信の失敗：情報発信ツールで市民向けにP R  
※情報発信ツール：情報紙「ニュースつどい」での行事開催ちらしの挟み込み、  
つどいブログでの情報発信、つどい体験会、  
「やお市民活動ハンドブック」製作

## 【改善：情報発信から情報提供へシフト】

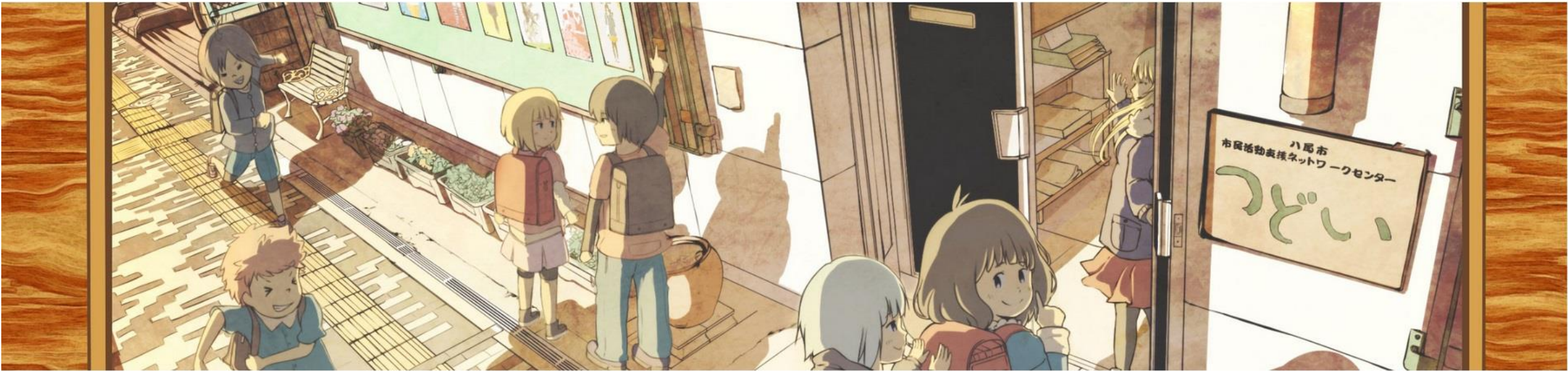
- 情報提供へシフト：ホームページリニューアル。ホームページ内の「つどい登録団体紹介」だけは、2017年7月に閲覧内容が改善。市民活動団体紹介カード。SNS導入（双方向やりとり）。「ニュースつどい」の休刊→「つどいの定期便」にシフト  
ハンドブック作製・更新をホームページへ移行を決断。

# ホームページのリニューアル



トップページ >

Facebookもチェック



「つどい」とは

はじめての方

ご利用案内

つどい登録団体の方

つどい登録団体紹介

つどいブログ

業務内容

がんばれ八尾応援寄附金  
八尾市市民活動支援基金

気象警報発令時館内対応



# つどいの情報発信媒体で提供を増やす ブログやSNS (Facebook・インスタグラム・ツイッター) で発信!



## つどいトピックス (お知らせ)



自作の登録団体紹介カードを持って  
来られました!!【河内昭和音楽  
団】



子育て支援井戸端会議  
2017年05月06日  
「つどい」の主催行事とお知らせ



つどい体験会【菜の花の新芽取り&  
菜種油でてんぷらづくり】  
2017年05月06日

つどい施設予約表【会議室】

2017年 7月

月	火	水	木	金	土	日
26	27	28	29	30	7月 1日	2
休館日	休館日	10:00 会議室(大): 雑話知らず、10:00 会議室(中): 国際宗務文 13:00 会議室(大): 市民が知る 13:00 会議室(大): 入付ウ 13:00 会議室(中): 指導員 19:00 会議室(中): 花咲きの	10:00 会議室(大): 総立性 13:00 会議室(大): よみきか 13:00 会議室(中): 健康子育て	13:00 会議室(大): はとス		
3	4	5	6	7	8	9
休館日	休館日	13:00 会議室(大): 八尾市新 10:00 会議室(中): 国際宗務 13:00 会議室(大): 家庭管理 10:00 会議室(大): 大原府 他・性	10:00 会議室(中): 寄慈会 13:00 会議室(中): 八尾マツ 10:00 会議室(大): NPO成 13:00 会議室(大): つどい博			
10	11	12	13	14	15	16
休館日	休館日	10:00 会議室(大): 雑話知らず、 13:00 会議室(中): 八尾子ま 19:00 会議室(大): 花咲きの	10:00 会議室(中): 国際宗務 13:00 会議室(中): 川の会	10:00 会議室(大): にほこ 13:00 会議室(大): あおけの 13:00 会議室(中): ライトウ		
17	18	19	20	21	22	23
休館日	休館日	13:00 会議室(大): 市民が知る 10:00 会議室(大): 高安ル 13:00 会議室(中): へばりキ 10:00 会議室(大): 熟年サ 16:00 会議室(大): 八尾市	10:00 会議室(中): 寄慈会 10:00 会議室(大): 八尾マツ 16:00 会議室(大): 八尾あ 16:00 会議室(中): 八尾イオ			
24	25	26	27	28	29	30
休館日	休館日		16:00 会議室(大): いよいよ 13:00 会議室(大): 写楽のこ 13:00 会議室(中): 赤い美 13:00 会議室(中): comfor			



# 市民活動団体ネット検索① (つどい登録団体の閲覧)



## つどい登録団体紹介

「つどい」に登録している市民活動団体を紹介します。

新規「つどい登録団体」



**こっどんきゃんでい**  
⑥学術・文化・芸術・スポーツ, ⑩子どもの健全育成



**河内の戦争遺跡を語る会**  
②教育社会, ④観光, ⑥学術・文化・芸術・スポーツ, ⑧人権・平和



**ほっとスマイル**  
①保健・医療・福祉, ③まちづくり



**八尾柏原精神障害者福祉を考える市民の会**  
①保健・医療・福祉, ③まちづくり, ⑧人権・平和



**竹洲ミニバスケットボールクラブ**  
⑥学術・文化・芸術・スポーツ, ⑨地域安全, ⑩子どもの健全育成



**子ども遊びのねっとわーく八尾**  
⑩子どもの健全育成

[新規登録順一覧](#)

# 市民活動団体ネット検索② (つどい登録団体の閲覧)

The screenshot displays a web page for a group called "子どもと遊びのねっとわーく八尾". The page is organized into several sections:

- Header:** "子どもと遊びのねっとわーく八尾" with a search bar and a "検索" button.
- Image:** A photograph showing people in a forest setting.
- 問合せ先 (Contact Information):** A section with a dashed border containing the text: "問合せ先については、つどいへご確認ください。"
- 活動目的 (Activity Purpose):** A section with a dashed border containing the text: "恩智の山のフィールドに焚き火・がけ登り・墓地づくりなど、子供達にやんちゃな遊びが出来る場所を提供し、みんなで一緒にお昼ご飯やおやつを作って食べることで、食育と子供達の健全育成を願う。"
- 活動内容 (Activity Content):** A section with a dashed border containing the text: "毎月第3日曜日、恩智神社上のフィールドで「自分の責任において自由に遊ぶ」というプレーパークの精神の元、毎月メニューを決めてお昼ご飯とおやつを作って食べ、各々好きな事をしながら交流を深め、みんなで子供達を見守りながら森での時間を楽しむ。"
- 活動分野 (Activity Field):** A section with a dashed border containing the text: "活動分野: [子どもの健全育成](#)"
- Footer:** Navigation links: "◀ 前の投稿へ" and "次の投稿へ ▶"
- Right Sidebar:** Contains several utility and category links:
  - 登録団体紹介トップページ
  - 検索:  検索
  - 新規登録団体
    - [こっどもきゃんでい](#)
    - [河内の戦争遺跡を語る会](#)
    - [ほっとスマイル](#)
    - [八尾柏原精神障害者福祉を考える市民の会](#)
    - [竹洲ミニバスケットボールクラブ](#)
  - 活動分野
    - 未分類(0)
    - ①保健・医療・福祉(105)
    - ②教育社会(73)
    - ③まちづくり(102)
    - ④観光(9)
    - ⑤農山漁村・中山間地域(2)
    - ⑥学術・文化・芸術・スポーツ(173)
    - ⑦環境の保全(54)
    - ⑧災害救援(16)
    - ⑨地域安全(30)
    - ⑩人権・平和(44)
    - ⑪国際協力(28)
    - ⑫男女共同参画社会(32)
    - ⑬子どもの健全育成(137)
    - ⑭情報化社会(18)
    - ⑮科学技術の振興(4)
    - ⑯経済活動の活性化(24)
    - ⑰職業能力・雇用機会(12)
    - ⑱消費者の保護(11)
    - ⑲連絡・助言・援助(中間支援)(25)
    - ⑳条例指定NPO法人(1)

- 興味のある団体が簡単に調べられます。

# 市民活動団体紹介カード



- つどい登録団体を名刺サイズで紹介
- 掲示の場・交流の場を提供



# 「つどい」は、こんなことができます！

「つどい」は、校区まちづくり協議会など地域活動団体と市民活動団体をつなげ、各事業が活発になる支援を行っています。

行事や活動に協力してほしい市民活動団体を探す際には、「つどい」をご活用ください！

## 行事・活動で市民活動団体に出席・披露してもらうまで

子どもが楽しめるパフォーマンスが出来る人はいないかな？

まちあるきの企画で、地域の歴史についてガイドしてくれる人はいないかな？

健康づくりの企画で、健康体操を教えてくれる人はいないかな？

まず、自分で探してみる

つどいに探してもらう

「つどい」のホームページで探せます！（下記）

「つどい」へ問合せ（TEL & E-mail & 来館）

「つどい」でお求めの市民活動団体を探し、おつなげします！

自由に打合せ（お話し合い）をしましょう！

開催・実施（出席・披露）

## 「つどい」ホームページから市民活動団体を探す方法



「つどい登録団体」をクリック！



「つどい登録団体」の活動がわかります！

※ 団体の詳細をお知りになりたい方は、裏面下の「つどい」へお問合わせください。

# 相談促進のチラシ作成 & ホームページ活用

## 「つどい」の紹介で行事が盛況に！

「つどい」が市民活動団体等を紹介したことで地域活動団体の行事・活動がさらに盛況になりました！

### 「魔法の国の冒険！」

青少年育成連絡協議会からの相談を受け、歌って踊れる「河内昭和音楽劇団」と手品の「八尾マジッククラブ」がコラボし、子ども達も一緒に参加できるマジック&演劇ショーを披露。間近で見るマジックに、子ども達は大喜び！会場は多くの笑い声に包まれていました。



【八尾小学校 校庭キャンプ】にて（平成28年8月27日）

### 「燈路まつり」で紙灯ろう

「久宝寺寺内町 燈路まつり」主催者から灯ろうの保管場所に困っているとの相談を受け、社会貢献を希望する紙箱の製造会社を紹介。その結果、折りたためる「紙灯ろう」が誕生しました！完成した紙灯ろうは「燈路まつり」で披露され、幻想的なまちなみづくりに一役かかっていました。



【久宝寺寺内町 燈路まつり「愛の郷」で紙灯ろうが展示（平成28年9月11日）】

### みんなでクラフト体験

八尾小学校校区まちづくり協議会から防災訓練をもっと盛り上げたいとの相談を受け、手づくりの楽しさを提供する「工房夢祭」を紹介。当日はクラフトづくりのブースが出展され、就学前のこどもから大人まで、たくさんの方が楽しそうに手づくり体験を行っていました。



【八尾小学校校区まちづくり協議会 防災訓練】にて（平成29年2月26日）

### フラダンス披露！

山本小学校校区まちづくり協議会から「地域ふれあい喫茶」の参加者を楽しませたいとの相談を受け、「フラ・ヴィーナス」を紹介。当日はフラダンスが披露され、会場は一体になって大盛り上がり！最後は参加者も一緒に踊り、その場にいる方々の交流も深まりました。



【山本小学校校区まちづくり協議会 地域ふれあい喫茶】にて（平成27年4月1日）

このパンフレットだけでは伝えきれないことがいっぱいあります！様々な市民活動団体が登録していますので、お気軽にご活用・お問合わせください！

●八尾市市民活動支援ネットワークセンター「つどい」●

TEL:072-928-3848 FAX:072-928-3850 E-mail:yao-tsudoi@celery.ocn.ne.jp

URL:http://www.yao-tsudoi.ecnet.jp/ インターネット:「つどい」「やお」で検索

# 失敗体験①に関連した改善 情報提供できる体制づくり 【データベース化】

## 【導入・構築・入力完了までの2年半の経過】

- 2014（平成26）年9月より、データベースソフト「FILE MAKER」の導入。
- 2015（平成27）年度末：構築完了。2016（平成28）年度末：登録団体情報の入力が完了。

## 【データベースの導入：登録団体のデータ管理改善】

- これまでは各データファイルで管理がバラバラ（一括管理へ）。
  - ★情報紙「ニュースつどい」宛名ラベル（Word）・送付リスト（Excel）
  - ★登録団体の新規登録・廃止登録の管理（Excel）

## 【相談業務の蓄積とデータ活用】

- 相談件数が増加。過去の相談から各スタッフが対応できる体制づくり。

## 【登録団体の活動がわかる内容の蓄積 → ホームページへ活用・掲載へ】

- ホームページをリニューアル。「つどい登録団体紹介」を新設・掲載。
- データベースの登録団体情報を活用。「つどい登録団体紹介」には、PDF化したブログの取材記事・情報紙掲載記事も掲載。
- 効果：ホームページを見て相談される方が増加。登録団体を指名される相談もある。

# 失敗から何を学んだか？ 【失敗体験②】

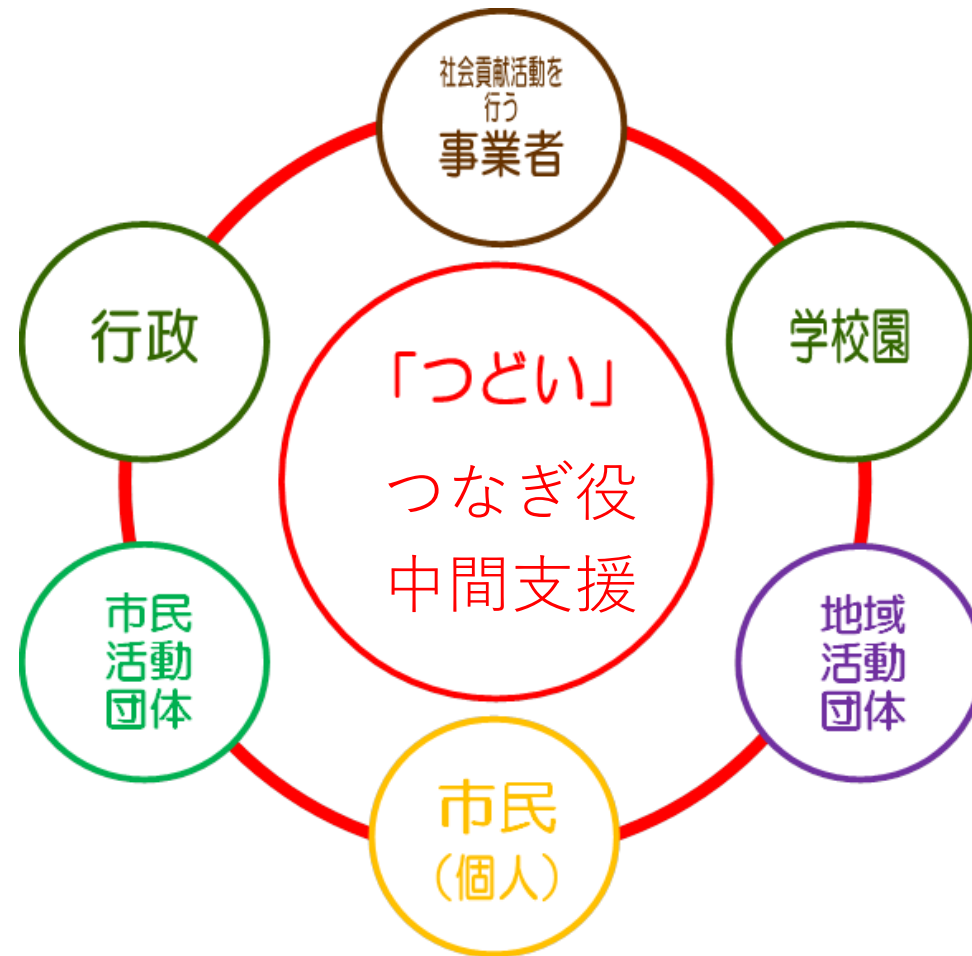
## 失敗体験②【2017（平成29）年5月～8月】

- **地域分権について勉強不足だった。**
  - **対象者の支援拡大が出来なかった。**
- 
- 地域分権の理解不足：市民活動団体以外の支援拡大が出来ず。
  - 【対策】 地域分権とは何か「スタッフ学習会の実施」
  - 【対策】 地域のニーズの把握：地域拠点施設へ聞き取り  
（出張所機能再編前に実施）
- ※ 地域拠点施設：出張所・コミュニティセンター及び人権コミュニティセンター
- 気づき：地域分権推進における「つどい」の役割を認識  
（地域拠点施設と校区まちづくり協議会に出来ないことを  
「つどい」がフォローを行う）





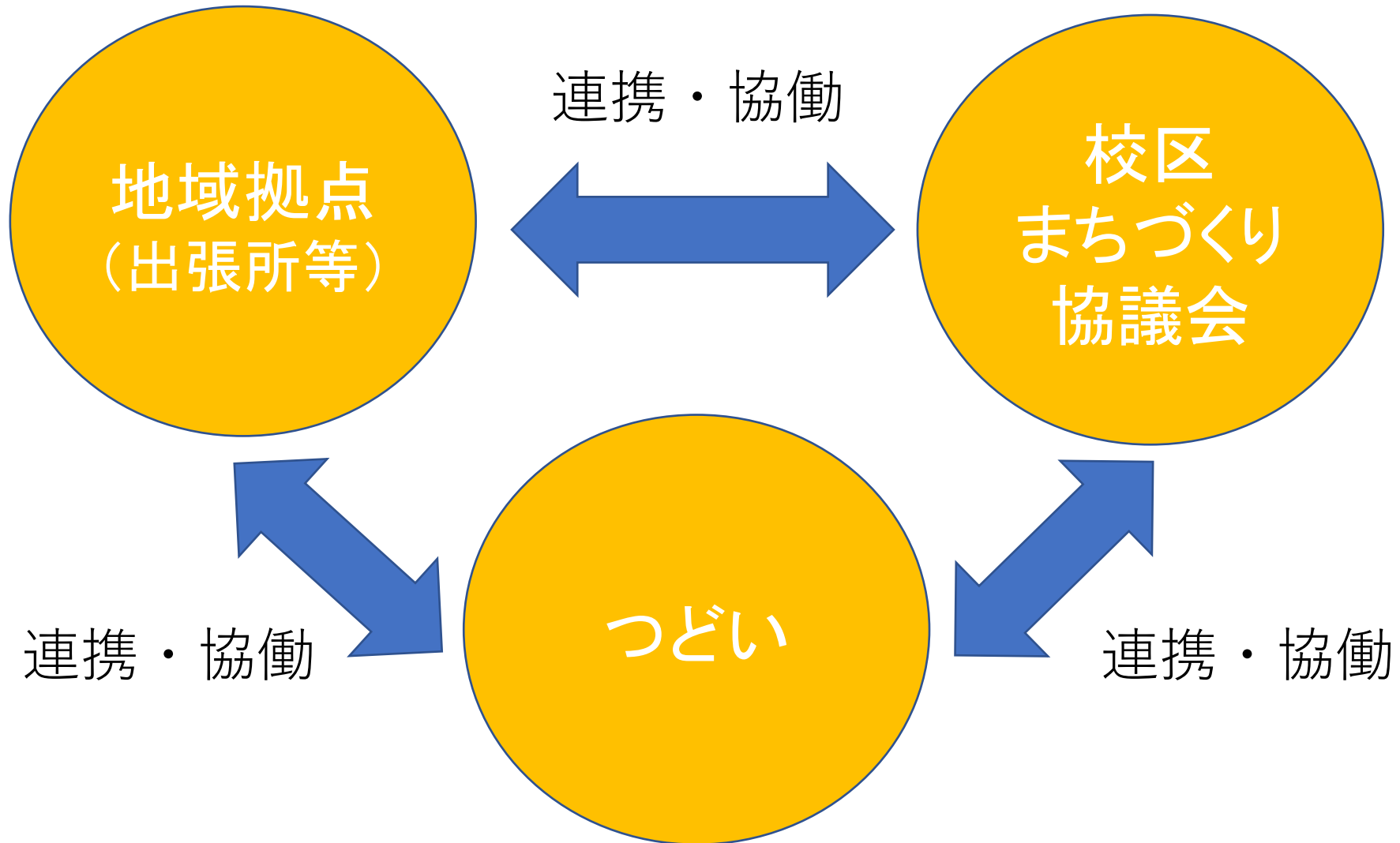
注釈：対象者の支援拡大とは？  
つどいは多様な活動主体をつなげる



つなげる（連携） & 協働する + コーディネート（全体調整）

多様な活動主体による協働づくりと公益を生み出すつなぎ役（中間支援）

# つどいの連携強化（イメージ図）



※ 地域活動団体と市民活動団体のつながり・協働の強化

# 失敗から何を学んだか？ 【失敗体験③】

失敗体験③【2016（平成28）年度～2018（平成30）年度】

## みんなの声・意見が聴けなかった

- 「つどい登録団体」へアンケート調査実施：毎年度1回実施（計3回）
- わかったこと（知見）：①は第1回実施。②・③は第2回目実施。
  - ①「つどい登録団体」が協働したことがある活動主体  
→ 地域活動団体と回答したのが最多（40.4%）
  - ②「つどい登録団体」の活動重点：最多「サークル&趣味」（24.0%）  
最少「地域課題の解決」（14.0%）
  - ③「つどい」に一番求める支援：  
1位「情報提供」  
2位「ハード面の充実」  
3位「広報」

## 【失敗体験②③からの業務改善：2017年度の取組背景】

★地域活動団体との協働が多い回答内容 → 出演・出展での単発的な協働。

★企画から共に活動する協働テーマ・取り組みづくりの必要性。

★「あっそうだ、あのこと聞いてみよう・・・」出張！専門家相談会

- ・ つどい登録団体「NPO法人て・と・て」の協力（士業で構成）
- ・ 地域拠点施設へのヒアリング訪問を機会に企画。
- ・ 毎週水曜日に実施。

★ 大正小学校区まちづくり協議会への支援

背景① 「魚の泳ぐ大正川をつくる会」（市民活動）が「大正小まち協」（地域活動）に加わった。

背景② 大正川周辺の下水道接続への啓発

背景③ 団体の高齢化と広報支援

→ 「学生団体はちのじ」をチラシづくり支援で紹介

# 【失敗体験②③からの業務：魚の泳ぐ大正川をつくる会】



ご協力  
の  
お願い

みなさまの協力によってずいぶんきれいになった大正川ですが、まだゴミが落ちていたり、川に汚い水がそのまま流れていることも、それぞれの役割ができることから、はじめてみませんか？

大正川、  
きれいに  
したいねん



私たち「魚の泳ぐ大正川をつくる会」は、大正川の清掃・植栽管理・水質の見守り活動を通して、魚をはじめとする多様な生物が生息する、すてきな川の状態を取り戻す取り組みをしています。みなさまのさらなる協力により、魚の泳ぐ美しい大正川を一緒に作りましょう。

ご協力いただきたいこと  
①川にポイ捨てしない  
②トイレや生活排水等の汚水を、下水道に接続する工事を行う

※公共下水道への接続工事は、八尾市排水設備工事指定業者で施工してください。また、公共下水道整備後3年以内であれば、助成制度がご利用いただけます（資格・条件があります）のでご相談ください。

問い合わせ 「魚の泳ぐ大正川をつくる会」の活動について：090-7766-0259（代表：松井）  
下水道への接続工事について：072-924-9364（八尾市都市整備部下水道管理課）  
大正小学校区まちづくり協議会事業

成果：下水道管への取付けの認知と広報は出来た。

★大正小学校区まちづくり協議会への支援「魚の泳ぐ大正川をつくる会」のチラシづくり

→ 成果と課題は、チラシの下記に記載

★アフターフォローの体制が「つどい」では乏しい。

★関係者人事異動→つながり途絶える。



参加  
募集

休日ちよつと体を動かしたいお父さん、川の周りを綺麗なお花で彩りたいお母さん、一緒に活動してみませんか？

大正川、  
きれいに  
せえへん？



昔は魚が泳いでいた大正川。現在、生き物の姿は少なくなりました。私たち「魚の泳ぐ大正川をつくる会」は、大正川を昔の姿に戻す取り組みをしています。ちよつとのぞきに来るだけでも大丈夫です。私たちと一緒に、小さなことから始めてみましょう。

活動日 毎月第2水曜日、第4日曜日（午後1時30分～）  
活動内容 川の清掃、川のほとりへの草花の植え付け、水質の見守り等  
活動場所 沼交差点信号から西へ、葵スプリング樹付近大正川沿い北側倉庫前  
※雨天は活動中止です。年末年始予定は別紙にて案内します。  
※詳しくは、下記にお問い合わせ下さい。

問い合わせ 090-7766-0259（代表：松井）  
大正小学校区まちづくり協議会事業

課題：チラシ作成後の仲間づくりには結びつかなかった。

【失敗体験②③からの業務改善：  
アンケート結果から対象者の分類を実施】

- ・「活動重点」が「サークル&趣味」と回答した団体
- ・「つどい利用状況」が「ハード面利用」と回答した団体

上記を回答した「つどい登録団体」を抽出し、ハード面利用の支援の対象団体にした。

- **それ以外の団体で、地域分権に意識がある、協働に意欲的な団体を抽出できるように、第3回のアンケートを実施。**
- **さらなる支援の検討。**



# スキルアップ講座の開催 【チラシ作りワークショップ】

PLAN：第2回アンケート結果から、「つどい」に一番求める支援内容の回答で、広報の支援が多かった。

Do：支援の着手が出来ていなかったなので「チラシ作りワークショップ」を開催。

Check：新しい参加者があった。副産物は相談業務でもチラシ作りを行う団体紹介の相談件数が増加。



★ 用和小学校区  
まちづくり  
協議会も参加  
【ちらしAfter】

★ 学生団体はちのじが  
つどいのスタッフになり  
ちらしづくりをレクチャー

## 【失敗体験②③からの業務改善：「つどい井戸端会議」】

### 【2017（平成29）年1月～現在】

- 登録団体等の持ち込み企画として毎月第4金曜日に「つどい」で開催。初回は「（仮称）子育て支援井戸端会議準備会」として、第2回から「子育て支援井戸端会議」に改称。
- 子育て支援は、親御さん、支援団体と参加がある中、子育て支援を取り巻く関係の話題も多くなったことから、丸2年が経った2019年1月の第25回より現在の「つどい井戸端会議」に改称。
- 「八尾の一時」で30名の参加があったが、「要望大会」の傾向もあり、参加者は次第に減少。当初は、進行役では登録団体にご協力いただいた。
- どんな話題でもOKで自由な意見交換として声・意見を聴く機会になった。
- 効果：悩みや想いが共通であること、それを共有することで意欲を持つこと、参加者のやりがいを提供できた。
- 上記のような共通認識を創ることの必要性和、共通認識として**地域分権を望む市民を生み出す機能が**「つどい井戸端会議」にはあることに気付かされる。
- 効果：「つどい」に市民活動をしたい方が相談に来られた際は、「つどい井戸端会議」への参加を促し、市民活動を始める機会として輩出することが出来た。1団体が登録された。

# 【失敗体験②③からの業務改善：状況把握の徹底 まち協の構成員の状況】

## 【2019（令和元）年度に実施】

- 地域拠点施設訪問を再開し、まち協の構成団体状況の把握を行い、構成員をマトリクス表でまとめた。
  - 構成員の団体数の差や各地域活動団体の構成状況の特徴を得る。
  - まち協と同じように、各構成員で成り立つ地区福祉委員会や地区自治振興委員会も構成していることもわかり、関連性も把握できた。
  - 構成員の各団体をインターネットで調べた際に、八尾市等の各行政機関が問合せ先になっていることがわかった。
  - 会議へ参加した際に、行政部署が地域活動団体へ補助等での協働をしていることもわかった。
- 行政機関別が、どのような地域活動への事業を行い、予算があるかを把握し、取りまとめた。

# 【失敗例②③からの業務改善：各行政機関別の地域活動事業・予算・役割分担等のあり方へ】

## 【2019（令和元）年度に実施】

- 八尾市実施計画の予算額（平成30年度）より事業名と計画額を引用。
  - 集約した情報を、各校区まちづくり協議会へ情報提供する必要性。
  - おおむね小学校区の地域活動団体で構成している「地区自治振興委員会」「地区福祉委員会」「校区まちづくり協議会」の存在を再認識し、各団体の役割分担が明確になっていないことも把握。＝【地域複合組織と定義】
  - 役割分担の不明確さが地域分権における課題であると認識。
  - 各小学校区でどのような事業や予算が協働で行われているか、地域分権の観点から地域活動団体が把握できていないと感じ、情報提供の意義を見出す。
- 地域自治・地域分権の推進においては、各地域複合組織のあり方と役割分担を提案する必要性を感じ、政策提案（案）も作成した。
- 状況把握により情報提供に活かした（地域活動予算の情報提供・地域分権と地域複合組織のあり方・役割分担の考え方）



# 八尾市における地域社会での 公共・コミュニティのまとめ役は？ 地域複合組織 3つの存在

## おおむね小学校区



5

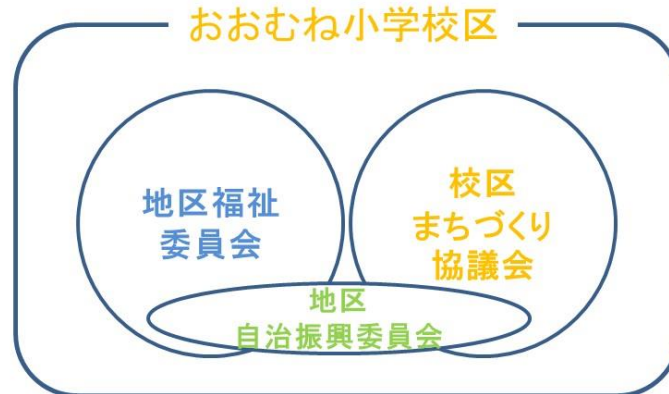
## 補足：既存の地域複合組織と 校区まちづくり協議会との相違点

既存の地域複合組織	相違点	校区まちづくり協議会
共益性(限られた対象者・エリア)	利益の範囲	公益性(小学校区内の不特定多数)
既存の地域活動団体	構成・参画	<b>本来は</b> 、誰でもが参画できる。構成出来る。
構成団体自ら行事や活動を行うことが多い。各活動主体のつなぎ役の意識は少ない。	中間支援の役割	<b>本来は</b> 、小学校区内のコミュニティに関する情報、事業支援、他の活動主体との協働、コーディネート
公益とみなした目的に制限のある補助金(小地域ネットワークなど)	収益	地域まちづくり交付金という公金＝公益性が問われる。 <b>本来は</b> 、NPO法人に則った多様な収益づくり。 <sup>12</sup>

## 地域複合組織の関係性 パターン①

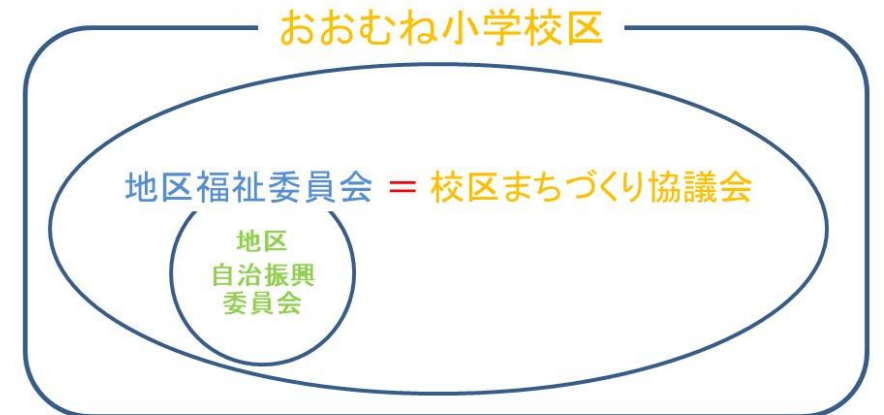


## 地域複合組織の関係性 パターン②



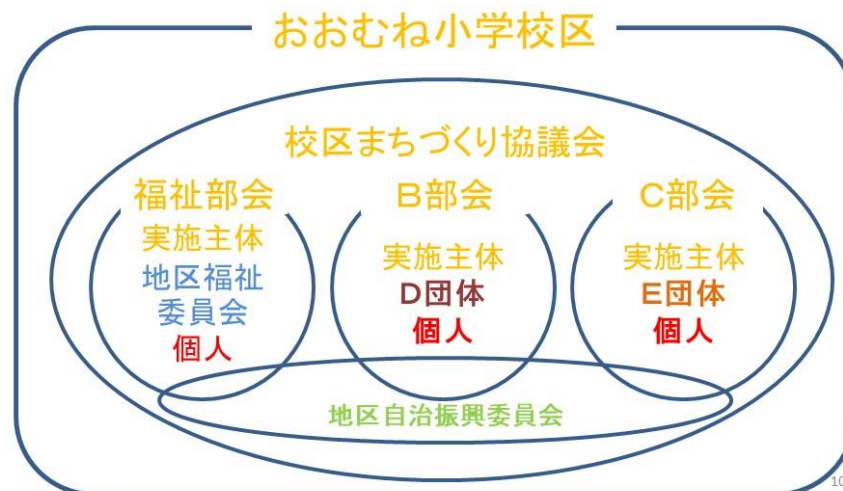
• 上記のサンプル: 山本小学校区まちづくり協議会

## 地域複合組織の関係性 パターン③



• 上記のサンプル: 東山本小学校区まちづくり協議会

## 地域複合組織のあり方 提案



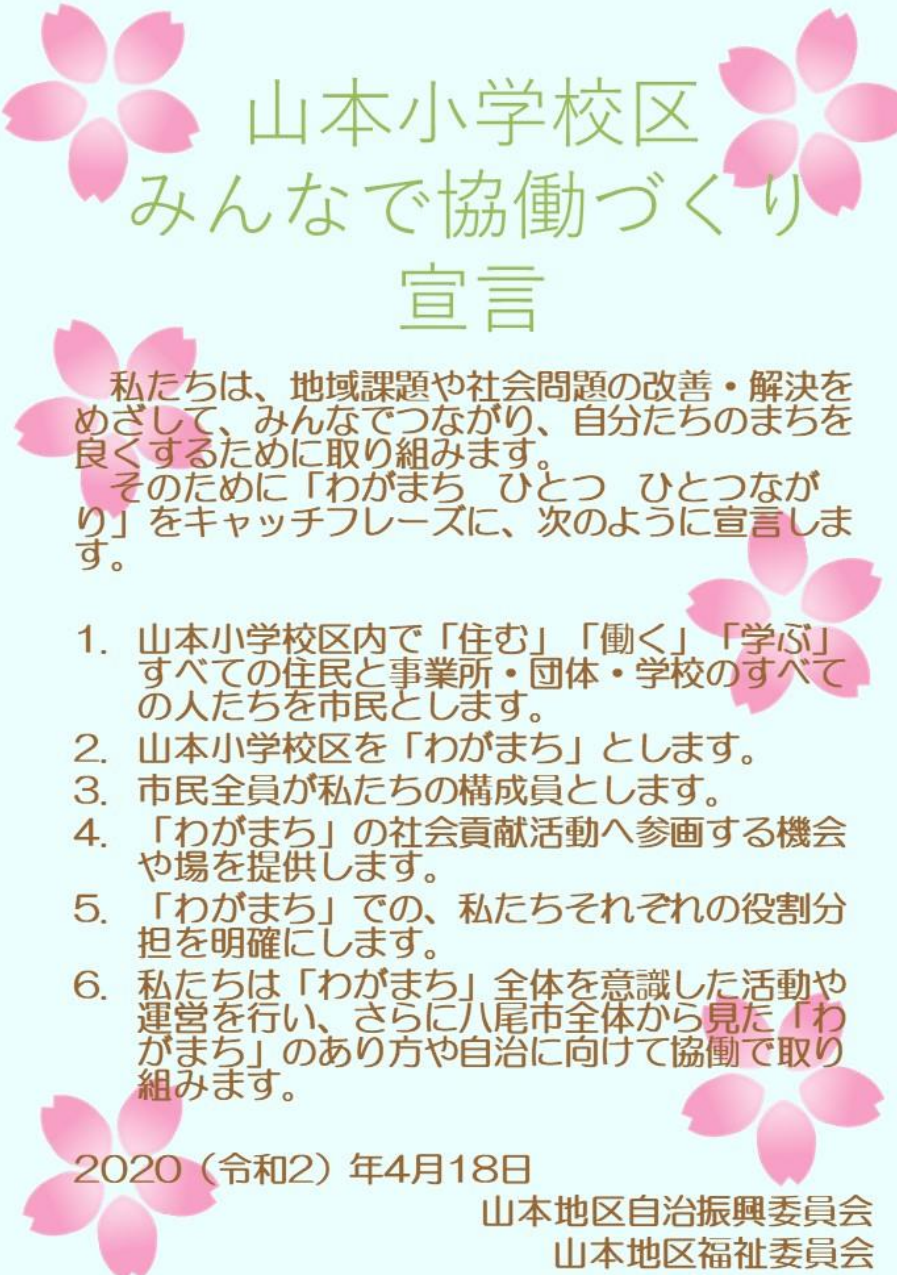
## 大切なこと: 自治について

- 提案は第三者からの提示です。
- 自治として地域での公共・コミュニティのまとめ役は、どの地域複合組織が担うのか。それを決めるのは、地域のみなさんです。
- みんなで議論し、あり方や役割分担を決めるのが自治ではないでしょうか。
- 自治の目: 小学校区内全体を視る目・市全体から小学校区を視る目



# 山本小学校区で 検討し選んだ 地域分権のあり方

つどいでは、  
あり方を提示し、  
協議の場を提供。



## 山本小学校区 みんなで協働づくり 宣言

私たちは、地域課題や社会問題の改善・解決をめざして、みんなでつながり、自分たちのまちを良くするために取り組みます。  
そのために「わがまち ひとつ ひとつながり」をキャッチフレーズに、次のように宣言します。

1. 山本小学校区内で「住む」「働く」「学ぶ」すべての住民と事業所・団体・学校のすべての人たちを市民とします。
2. 山本小学校区を「わがまち」とします。
3. 市民全員が私たちの構成員とします。
4. 「わがまち」の社会貢献活動へ参画する機会や場を提供します。
5. 「わがまち」での、私たちそれぞれの役割分担を明確にします。
6. 私たちは「わがまち」全体を意識した活動や運営を行い、さらに八尾市全体から見た「わがまち」のあり方や自治に向けて協働で取り組みます。

2020（令和2）年4月18日  
山本地区自治振興委員会  
山本地区福祉委員会  
山本小学校区まちづくり協議会

# 【失敗例②③からの業務改善： 山本コミセンラウンドテーブルの実施】

【2017（平成29）年度から実施】

- 2018（平成30）年2月から実施。
- 会議へ参加した際に、行政機関が地域活動団体へ補助等での協働をしていることもわかった。
  - 行政機関別が、どのような地域活動への事業を行い、予算があるかを把握し、取りまとめた。
  - 山本小学校区みんなで協働づくり宣言の策定とその支援の実施について情報提供を行った。



# 失敗から何を学んだか？ 【失敗体験④ 講座】

## 失敗体験④ 【2012（平成24）年～2016（平成28）年】

### 講座を開催しても、参加者が集まらない。

- 参加者に講座目的・考え方が浸透しない。絞られたテーマは対象者も絞られる。
- テーマがマニアックであり、対処しないといけないテーマも参加者がいない。
- 行政の動き・変化に合わせた企画も提供したが、参加者の求めている内容ではないのか、参加者へ浸透しなかった。
- 2016年度から仕様書の変更によりスキルアップ講座として変更。

(2012年度：地域活動紹介・手話・似顔絵・

NPO法人認証委譲・持ち込み企画によるサロン)

(2013年度・2014年度：会計サロン・登記)

(2015年度：「かがやき」からの依頼によるボランティア講座)

(2016年度：NPO法人対象の相談会2回ともに参加者0名。

報告書・会計の学習会は5名の参加者。)

# 失敗から何を学んだか？【失敗体験④ 交流会】

## 失敗体験④【2011（平成23）年～2015（平成27）年】 交流会を開催しても、その後の発展（連携・協働）が生み出せなかった。

- 交流会の企画疲れ：主催者も参加者も。
  - 交流会の打開として、他市町村の取り組みや「協働マッチング」や体験会の実施をして来たが、単発で終わる（次の連携・協働の展開を作れず）。
    - （2011年度：商店街との協働：八尾キャンパス・繁栄商店街現地見学・地域と市民活動との関り方）
    - （2012年度：持込み企画・体験会・団体活動紹介）
    - （2013年度：市民活動支援基金報告会へ向けて）
    - （2014年度：癒しの芸術で元気になろう！・巨大クリスマスツリー作り・小松菜収穫体験）
    - （2015年度：高安山散策とメダカ鑑賞・手作り紙箱体験・摂津市子育て応援イベント見学・志紀ふれあいの森整備活動）
- 近年は「山本コミセンラウンドテーブル」「つどい井戸端会議」を交流会に位置づける。



# 【失敗体験④からの業務改善 講座・交流会を相談業務へシフト化・集中化】

年度	相談 件数	講座 回数	交流会 回数	体験会 回数	
2010 (H22)	30	13	12	—	
2011 (H23)	37	12	11	—	
2012 (H24)	76	12	10	—	中環の森での開始
2013 (H25)	68	10	11	—	8月：仕様書変更
2014 (H26)	100	2	19	—	
2015 (H27)	108	0	26	2	体験会の開始
2016 (H28)	126	3	12	8	講座→スキルアップ 支援へ つどい井戸端会議開始
2017 (H29)	144	8	20	6	チラシ作りWS・パンフレット づくりWSの開催。山本コミセ ンラウンドテーブルの開始。
2018 (H30)	148	2	26	6	出張専門家相談会
2019 (R元)	172	2	17	2	つどい体験会関係者連絡会 を休止
2020 (R2)					

- 下記の年度で相談件数が大幅に増加。

★2012 (H24) 年度  
 ★2014 (H26) 年度  
 ★2016 (H28) 年度  
 ★2017 (H29) 年度  
 ★2019 (R元) 年度

- 講座は仕様書変更でスキルアップ支援として双方対象のやり方に変更。対象者も絞る。
- 交流会はラウンドテーブル形式に特化。

# 失敗から何を学んだか？ 【失敗体験⑤イベント】

## 失敗体験⑤ 【2013（平成25）年11月～2016（平成28）年11月】

### やお市民活動まつり「アートやっちゃお！」での協力者・担い手がつくれなかった 大規模イベントでの協力者・担い手づくりの参画方法（参画実験）への疑問

- 目的：「ふれあい」「つながり」「交流」を図り、地域社会に貢献し公益を産み出すこと。
- 概要：半年に1回（5月と11月の年2回）の計8回開催。「大阪市・八尾市・松原市環境施設組合 八尾工場」グラウンド内で開催。
- 内容：各活動主体・個人が自己表現の場（出展・パフォーマンス）として定期的に参加。焼却工場見学同時開催、地域活動団体等の協力、60を超える出展。約500～3500名の参加者数。
- 失敗：主で準備から担う人が生み出せず、事務局中心による運営。事務局個人の体力・気力の衰え。イベント形式で開催しても、興味のない方は来ない。初めて来場する方も楽しむが、参画にはつながらない。この課題解決策が見いだせず、開催の見直しを行った。
- 気付き：目的が、地域分権の推進よりも「ふれあい」「交流」のコミュニティの活性化に偏った。  
**運営を担う市民づくりに目が行き、地域分権（本来の自治の原則に戻す）を望む市民づくりにつながらなかった。**
- 備考：つどい業務として、2011年度から2013年度は「交流会」「広がり交流会」に、2014年度は「公益的活動の活性化」に位置付けて開催した。



## 【失敗体験④ イベントそのものを見直す・検証】

【イベント形式では、「新しい担い手＝地域分権を望む市民づくり」は産まれない】

- イベント形式による開催では、新しい担い手が生まれず、市民活動などに関心のない方が来ない。
- 関心のない方に、情報を提供する方法がない（SNSや相談業務での来館者頼み）。

【イベント開催の実施で精一杯になり、開催目的まで行きつかない】

- イベント形式は段取り八分。準備に追われ、開催すればホッとする。
- 開催する事が目的になってしまう事に疑問を持つ。開催目的までエネルギーを注ぐ体制がない。

【イベント来場者：楽しさ・目新しさ（創造）を求める傾向→社会・地域課題の改善は求めない】

- 来場者も市民活動団体も、楽しさ・目新しさを求めている。社会・地域課題の改善を直接行う市民活動団体が少ない。楽しさ・目新しさ（創造）に主体的に取り組む市民活動団体が多い

【具体的な事業活動型を見せることの必要性】

- 校区まちづくり協議会の研修では、学識経験者から地域活動も「行事開催型」から「事業活動型」への転換期であると叫ばれる中、**事業活動型の具体化するテーマ・方法に解決策が見えず、ズルズルとイベント形式から脱皮できなかった。**
- 担当者が、様々なイベントに主催者側で足掛け14年間携わり、地域分権を望む市民づくりとして現在のイベント形式での開催に疑問を持つ。

# 失敗から何を学んだか？

## 【失敗体験⑥ マネジメントサイクル】

失敗体験⑥ 【2013（平成25）年8月～現在】

マネジメントサイクルが理解できなかった。

マネジメントサイクルを回す余裕がなかった。

PDCAサイクルのD（実施・実践）ばかりで、C（検証）・A（改善）を振り返る時間や体制がなかった。

- 報告書・計画書等提出を求める「声」「嵐」がすごかった2017年度。
- 独自指標の検討。月報の着実な作成。
- 失敗⑥：自治・委託のあり方。行政の関与度について。

# 失敗から得たこと 「地域福祉」と「新し公共」の 人づくり・人育て

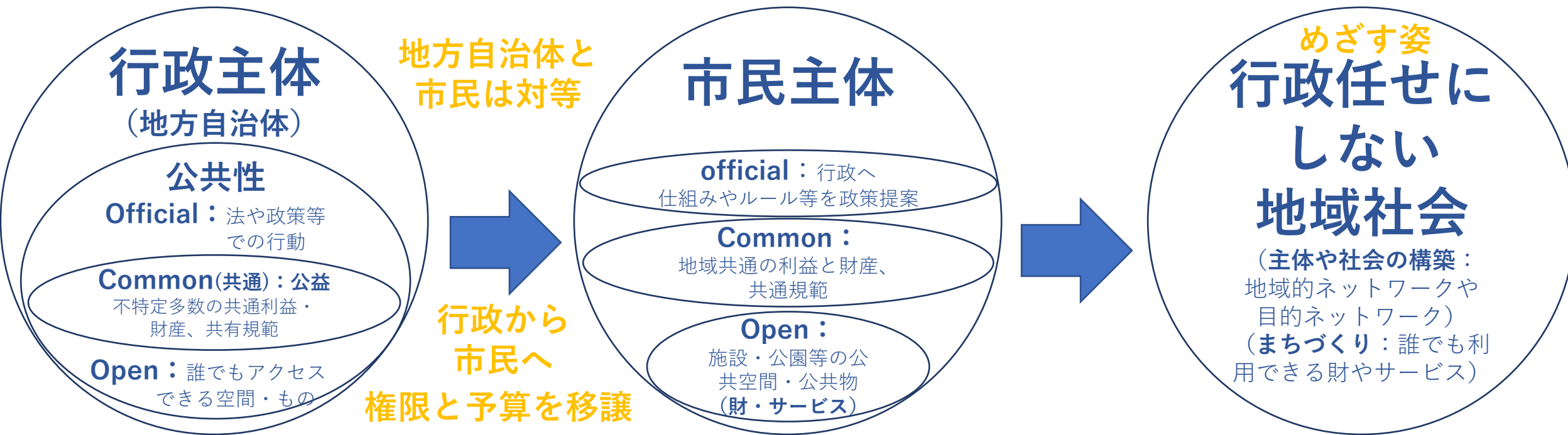
元を知る「地域福祉」と「地域分権（新し公共）」  
コラム・個人の所感

ひとりひとりが幸せになるために、  
みんなで助け合う「人づくり」【地域福祉】



- 自助→共助→公助の順序で、ひとりひとりの幸せを育む。
- 地域では地区福祉委員会が担い、中間支援組織は社会福祉協議会が担う。
- 第6次総合計画でいう「共生（誰も取り残されることのない）」の役割・機能。

# みんなが幸せになるために、新しい公共を望む 「人づくり」「人育て」 【市民主体の自治の実現】



- 市民が「新し公共」を望み、市民自ら「取組み」と「仕組み」を構築
- 「新しい公共」の推進は、地域では校区まちづくり協議会が担い、行政は出張所等（地域拠点施設）が担い、そのフォロー役・中間支援組織は「つどい」が担う。
- 第6次総合計画でいう「共創（輪を広げ層を厚く）」「地域のまちづくり」の役割・機能。

# 比較

地域福祉	比較	地域自治・地域分権
共助社会の実現 (みんなで助け合い、ひとりひとりが幸せになる)	目的 (Why)	市民主体の自治の実現 (自治を望む市民を構築する社会、公共へ 取組み&仕組みを構築する社会)
行政頼りにならない社会	めざす 地域社会の姿 (vision)	行政任せにしない社会
コミュニティ活性化	多様な結果	自助意識の向上、共助意識の向上
自助が出来ない市民、共助をしたくない市民、 すぐ公助へ頼る市民	対象 (Whom)	市民主体の自治を望まない市民 公共性 (Official：法律・制度・施策) (Common：共通財産・利益と共通規範) (Open：公共空間・公共施設・公共物)
地域：地区福祉委員会 行政：地域共生推進課 (旧 地域福祉政策課) 中間支援組織：八尾市社会協議会	推進主体 (Who)	地域：校区まちづくり協議会 行政：地域拠点施設 (出張所等) 中間支援組織：つどい (官設民営)



# コラム：直感的な先見の目があった？

- 新型コロナウイルスの感染拡大と、それによる社会転換・世界の変化・生活転換の予測は、全く出来ていませんでした。
- 地域分権いわゆる「本来の自治の原則に戻す」ことを望む市民・活動主体づくりについては、これまでのイベント形式による開催、講座・交流会は、2018（平成30）年度から、大きく見直しを行った。  
人を呼び出し集める開催のあり方の見直し。  
「本来の自治の原則に戻す」を望む市民を生み出す活動支援。  
イベント形式開催自身への考え方・目的・取組みの「あり方」を早くから模索。
- 各種活動主体による活動は、活動目的のために、情報発信方法、目に付く表現方法、楽しさを提供する等方法など様々な「やり方」を切磋琢磨する傾向がある中、私たちは「あり方」にエネルギーを注いだ。
- 副産物として各種活動主体でも存在意義等の「あり方」が薄らいでいる危機感もあり、理念や方向性・指針という情報提供ができるようになった。

# 最後に【担当者個人の所感】

- 私達は無意識の内に「地域分権を望む市民を創る」という問いに応えようと、様々な取り組みと失敗を繰り返し、改善も行って来た。
- つどい委託運営料以外の収益として、「つどい業務」以外の事業で、対象者から実費徴収等対価を得ることによって自立を法人内でも求められてきた（未だ実現は出来ていない）。自治の中に自助の要素が含まれることも気付かされた。
- 対価以外にも対象者の笑顔や成長や幸せになる姿を見せられる協力者（第二の顧客）を創ることに行き着いた。
- 地域の自治は行政任せ・他人任せではないこと。地域の福祉は行政頼みでない自助する者同士で助け合う共助社会の実現だった。
- そのような「あり方」を突き詰めて来た。そして「あり方」を模索したことで、次の“時代を読み”“空気を創る”ことをして来た。
- 11年前に「つどい」で再び仕事に就かせてもらった時、「つどい」の運営は行政頼りの面があった（郵送宛名ラベルの提供・有価物の処分）。
- 自分で出来る所から始めようと思い業務に携わったことが、私の自治意識の原点だと気づかされた。